住民が保健師と協働して行う健康づくり活動の取り組みに関する検討

～出張健康はなまる教室実施に関する保健活動推進委員活動～

遠藤直子[1]　中山亜里[2]　山田悠美子[2]　高畑舞[2]　松浦裕美子[2]
柳修平[1]　中田晴美[1]　犬飼かおり[1]　服部真理子[1]　伊藤景一[1]

1　東京女子医科大学看護学部　　2　掛川市健康福祉部保健予防課

要旨

掛川市では健康づくり活動のさらなる充実のため、掛川市保健活動推進委員会の地区活動を活用して市が考案した「出張健康はなまる教室」の展開をすすめてきている。本調査では、住民の主体的な健康づくり活動を重視し今後の健康づくり活動の検討資料を得ることを目的に、保健活動推進委員(2グループ7名)にグループインタビューを行い、出張健康はなまる教室に関連した地区活動の現状と課題を整理し、今後の健康づくりに必要なことを検討した。その結果、【出張健康はなまる教室に関連した地区活動のすすめ方】では、出張健康はなまる教室が市から与えられたテーマと受け止められ、地区活動のすすめ方に沿って指針として活動されている現状や、課題として保健委員が健康づくり活動の目的や方法の理解が不十分なまま活動して抱く不安などの精神的負担、地域内や保健委員同士など保健委員活動を行う協力体制、予算消化の問題などがあった。【今後の健康づくりに必要なこと】として、1）市（保健師）が担う役割、2）健康や保健委員活動に対する理解の促進、3）健康づくりの方法や内容の改善や充実が示されており、地域全体を巻き込んだ健康づくりの推進体制づくりや行政と市民との活動目的や方法の共有が必要となることが示唆された。

Ⅰ．研究の背景

近年の急速な人口の高齢化や生活習慣病の増加等に対応するため、平成12年に国民の主体的健康づくり「健康日本21」が策定されて以降、各地方自治体でも健康づくりの取り組みが進められてきている[1)]。掛川市でも、平成20年に策定した掛川市健康増進計画「健康かけがわ21」に基づき健康づくり事業を展開しており、その活動はますます重要になっている。

掛川市では健康増進計画策定以前より、住民自身による健康づくりを推進するための地区組織（保健活動推進委員会）と保健予防課が協働して保健事業を行ってきている。さらに平成22年度から「自分自身で健康を守ることのできる市民を増やすこと」を目的に、保健活動推進委員（以下、保健委員とする）の地区活動を活かし「出張健康はなまる教室」を市内32地区で展開し、健康づくり活動のさらなる充実を目指して活動している。この活動は、保健委員の協力を得て、保健活動推進委員会の地区活動に取り入れる形で実施しているが、保健委員の手引書で定義される地区活動「地区の要望を取り入れ地区活動を行う」ものとは異なる形態で実施されるため、市が提案した健康教室を住民が地区活動として行う時に、役割に混乱が生じやすいと考えられる。特に、協働して地区活動を企画する保健師との役割分担が不明確となり、住民の主体性が阻害される可能性も考えられる。

掛本らが掛川市で行った調査でも、住民が主体的に取り組める健康づくりを推進するために「連続した関係性を構築する」ことが重要であり、関係性を阻害するものに「地域内の活動の役割の不明確化」があると報告されている[2)]。

これらのことから、住民の主体的な健康づくり活動の円滑な実施と推進のためには、住民と保健師の役割分担を含む地区活動の円滑な運営方法を検討し、今後の健康づくり活動に反映させることが重要と考えた。そこで、グループイ

ンタビューで得た住民の「なまの声」をもとに活動の現状と課題を整理し、住民の主体性を重視した健康づくり活動の新たな方向性を検討することとした。

Ⅱ．研究目的

新たな地区活動である「出張健康はなまる教室」に関連した取り組みについて、保健委員からみた現状と課題を整理し、協働のあり方や掛川市の今後の健康づくり活動の方向性を検討するための基礎資料を得る。

Ⅲ．研究方法

1．グループインタビュー参加者

平成23年度掛川市保健活動推進委員会の役員（2名）およびブロック代表連絡員（5名）の2グループ計7名。

2．リクルート方法

参加者は、地域に精通し分担研究者でもある保健予防課職員に紹介を依頼した。参加者には事前に、1）目的、2）方法、3）日時、4）場所、5）名前や地区名が外部に出ないこと、6）問い合わせ先等について説明し、口頭で参加協力の承諾を得た。また、実際にグループインタビューを行う前に、研究責任者が文書を用いて目的、方法、倫理的配慮等について口頭で説明し、書面と口頭で参加協力について承諾を得た。

3．調査方法

平成23年度掛川市保健活動推進委員会役員グループとブロック代表連絡員グループに対し、別々にグループインタビューを行った。調査場所は、プライバシーの守れる静かな個室とし、参加者の承諾を得て、ICレコーダーとビデオカメラを設置し、グループインタビューの内容と様子を記録した。さらに、情報を漏れなく整理するため、目立たない場所で、観察者はグループインタビューの様子を記録し、記録者はインタビュー内容を記録した。

インタビュー中は、各参加者の前に番号札を設置（机上）し、筆記や観察記録では名前の代わりに番号を用いてプライバシーの保護に努めた。また、話された内容は研究以外では使用しないこと、各参加者もインタビューで話された他者の話を口外しないことを約束事として討論を進めること、体調に配慮して実施することを説明し、安心して討論できるように配慮した。インタビューの所要時間は、1時間半から２時間とし、参加者が話しやすい雰囲気を作るためお茶を用意するなどの工夫をした。インタビュー内容は主に1）保健委員の経験年数と役職、活動地区の特徴、2）地区活動として行った健康はなまる教室の現状と課題、3）今後の健康づくり活動をよりよくするために必要なことであった。

4．分析方法

正確な逐語録と観察記録を作成し、複数の分析者で確認しながらインタビュー内容に関連する重要な言葉を重要アイテムとして抽出した。抽出したアイテムは、背景要因を含め、掛川市保健活動推進委員手引書「地区活動のすすめ方」に沿って、活動場面ごとにまとめ、カテゴリー名をつけ整理し、類型化した。これを各々のグループについて行い、各々の重要カテゴリーに注目しながら、共通点と相違点について背景要因を考えながら検討したうえで、すべての重要カテゴリーを整理し、類型化した。

5．倫理的配慮

参加者に研究目的、方法、匿名性の確保、研究参加と途中辞退の自由などを口頭と文書で説明し、文書にて研究参加の同意を得た上で、プライバシーに配慮し研究を行った。また、東京女子医科大学研究倫理委員会で承認を受けた。

Ⅳ．結果

インタビューで得られたデータを分析した結果、【出張健康はなまる教室に関連した地区活動のすすめ方】、【保健委員活動に影響する要因】、【今後の健康づくりに必要なこと】の３つのテーマに分類された。

分析結果の記述は、主に上記３つのテーマについて抽出された重要カテゴリーとサブカテゴリーを用いて説明する。記述では、重要カテゴリーは《　》、重要サブカテゴリーは〈　〉、重要アイテムは「　」で示す。

表1.【健康はなまる教室に関連した地区活動のすすめ方】

※ 点線で囲った項目は、活動のすすめ方において手引書の「地区活動のすすめ方」の枠組みに不足していた活動内容を表す

※ 下線部は、活動時のネガティブな側面(課題)を表す

0-1. 地区保健委員会の引き継ぎ (役員決めと年間スケジュールの決定)

重要カテゴリー	重要サブカテゴリー	重要アイテム
役員を押し付け合う引き継ぎ会で年間スケジュールを決める	役員を引き受けると不幸という地域内のムード	代表連絡員を引き受けると不幸・大変
	役員とスケジュールを決めるだけの引き継ぎ	代表連絡員とスケジュールを決めるだけ 保健委員活動について何も知らされない
何もわからない状況で年間スケジュールを決める	地区活動を企画するための情報の不足	他の地区でやっている活動の情報がまわってこない 他地区の活動の情報を得るには総会資料などを見るしかない
	何もわからない不安	すすめ方自体がわからないから難しい 直接携わった人がいればもう少しいろんなアイディアも出る気がする

0-2. 地区保健委員会での企画立案 (予算・会計)

重要カテゴリー	重要サブカテゴリー	重要アイテム
活動費の使い方に対する負担(予算を使いきらなければいけない)	予算が多すぎる	前年度の活動で余ったものを回すと予算が余る 最低限の決められた活動をやり、お金がはければいいという雰囲気がある お金を消費するのと会計をやるだけでものすごい労力 会計はいらないのではないか
	予算の活用方法や仕組みに問題がある	予算をもっと活かす方法はないか考える 予算消化の問題が出るのは違うことに問題があると思う

1. 地区保健委員会での企画立案 (①日時 ②会場 ③内容)

重要カテゴリー	重要サブカテゴリー	重要アイテム
①日時: 自分たちなりに考えて決める	前年度を参考に時間を決める	今までどおりずっと昼間にやった 自分と同じ年代の人が集まりやすい時間で設定した
	人の集まりやすい時間を予測して日時を決める	昼間だと集めにくいので夜活動した 夜だと出られる人が限られる 夜やれば男の人たちも増えるかもしれない 毎週同じ曜日にしたら続けて参加してくれた
②会場: 会場選びのポイント	地区の中で活動する場所は自ずと決まってくる	地区全体のことはセンターでやると(暗黙で)決まっている 活動ができる場所は1か所なので同じメンバーが出てくれる
	会場の近さと広さを考慮する	地域にばらまいて活動したので違う顔ぶれが集まった 新しい人は近くだと行く 同じところでやると顔ぶれが決まるという前年度の反省を活かした 広い所がいいが、あまり広すぎても困る
③内容: 「出張健康はなまる教室」は「市から与えられた活動」	健康のために与えられた良いテーマ	市民の健康のために市として取り組むテーマがあってもよい 健康に関するテーマ自体はよい
	初めて地区活動を行う時の指針となる企画	市からテーマや指針をもらえると初めてでも企画できる 与えられたテーマに沿って活動して初めて次に生かすアイディアが出る
	必要性が感じられない押し付けられた活動	市から一方的にやってくださいとおりてきた 市から出されたテーマとやり方が地区の要望に合っていると思えない 内容(テーマ)に興味をもっている人が少ない 保健委員自身が内容に興味や意義を感じることができない
	テーマと枠組みが決められた不自由な活動	市から一方的にやってくださいとおりてきた 市への反発から自分たちだけでやれる方法を考えた やろうと思っているところに、上から活動内容を押しつけられ不満がでる

2. 計画・立案

重要カテゴリー	重要サブカテゴリー	重要アイテム
地区の状況がわかるからこそ生じる講座実施への懸念	地区の状況と地区の人への遠慮から働きかけ方法に苦慮する	自分たちにできる目を引く宣伝方法がない 電話や訪問をしてしつこいと思われたらどうしようと考える どこまで地区の人たちにふみこんで活動していくのかが難しい
	地区の様々な事情から企画の難しさを実感する	新しい人もいる地域で興味に差がある 農業や祭りなど季節を考慮する必要性

3．協力・援助

重要カテゴリー	重要サブカテゴリー	重要アイテム
地域の協力	地域の協力があると楽に活動できる	地域の人たちが活動してくれれば、保健委員はそれを手伝える 地区のセンター長が率先して動いてくれた 前年度役員をやって大変だったからと協力するよという人がいた 電話や訪問で声かけすると講座に必ず来てくれた
	地区の長の協力を得ると参加者が増える	自分の夫が地区の組織長で声をかけたら組織の人が来てくれた 区長会などに協力をお願いすると良いと思う
地区内の他の委員とタイアップ	地区内の他の委員と運営も予算も持ちあうと効果が大きい	予算も持ちあって活動する タイアップすると参加者も多い ほかのところとタイアップする

4．宣伝活動

重要カテゴリー	重要サブカテゴリー	重要アイテム
出張健康はなまる教室を開催するための準備（PR）	自分たちなりに工夫して行ったPR	いつもと同じやり方でタイミングよく・目につく方法 （口コミ、回覧のタイミングの工夫、ちらしの全戸配布など） 自分たち（保健委員）にとって負担の少ない方法 地区のつながりを活用する方法
自分たちの宣伝活動の結果	PRの成果がない （教室参加者が少ない）	方法を工夫して苦労してPRしても人が集まらない 保健だよりは見たようで忘れてしまう 声を出せばよかったと自分たちのPR方法を反省する
PR活動に対する思い	人を集める大変さや不全感	人集めが大変、人が集まってくれればいいってこと 人集めがやはり大変 地区に合っていないから人集めが大変

0-3．健康講座（出張健康はなまる教室）の事前準備

重要カテゴリー	重要サブカテゴリー	重要アイテム
市（保健師）のやり方に則った事前準備	保健師に聞きながら自分たちで必要物品を調達する	参加人数の見込みに合わせて準備・処理する
		保健師にアドバイスをもらい準備する
	市からの説明の理解が不十分で物品準備ができない	保健委員が物品を準備することがわからなかった
		書面で説明されていてもピンとこないことがある
		市の研修に出るだけでは通じなかったということがある
	市から提示された会計方法を無駄だと思う	（会計上の無駄）市で一括会計できるものがある
		（物品準備上の無駄）市で一括注文できるものがある

5．健康講座（出張健康はなまる教室）の当日

重要カテゴリー	重要サブカテゴリー	重要アイテム
はなまる教室当日の運営	内容がわかっていれば当日の運営はできる	内容がわかっているので運営は大変でない 行事をやるのはその時は大変 活動することはやろうと思えばそんなに大変じゃない
	どうせやるなら負担なく楽しくやろうと心掛ける	その時はなんてことなくても後で楽しかったと思うことある
	2年目の人がいると安心して活動できる	半分の人たちが2年続きの人なので、当番に準備に抜けがないように注意してくれる 質問されれば経験者が答えて、聞いて様子がわかるとやりやすい
	自分の運営方法を不安に思う	やりはじめてから疑問に思うことが出てきたりする 文書をもらっていても実際と結びつかないので不安 最後までこれでよかったのか不安になる
	人が集まらなくても仕方ないと決めて活動する	参加人数は少なくても仕方ないと決めて活動している 健康意識を持っている人だけがやればいい
	小さな子供連れで活動する大変さ	講師や代表連絡員が託児をしながら講座を運営した 小さい子供が一緒でいたずらが過ぎて会場からクレームがきた
はなまる教室当日の評価	出ると面白く勉強になる	やってみたらなかなか面白いということがある 出た人はやっぱり勉強になる
	参加した人には良い内容だが参加者が少ない	出張健康はなまる教室の参加者は限られている （保健委員・決まった人・内容に関心をもつ人・義理で来た人・時間の自由のある人など） 出張健康はなまる教室の参加人数は少ない 教室の内容（テーマ）によって出席率が違う 参加した人は熱心にやるが内容によって反応に差がある

6．報告書・感想

重要カテゴリー	重要サブカテゴリー	重要アイテム
健康はなまる教室の実施結果に対する不全感	新鮮味がないと参加者が少なく、結果的に内容を浸透できずもったいない	去年と同じ内容だと新鮮味がない 健康に気をつける年代の人に必要な内容 地区で活動内容を浸透させることができない 内容をもっとたくさんの人たちに知ってほしい
講師に対する罪悪感	参加者が少なく講師に対し申し訳なく思う	参加者が少なく講師に申し訳ない 参加者が多いと講師の先生も張りあいが出ると思う

7．学習
（①自分のからだを知り家族の健康を考える ②市の健康状況・地区を知る ③研修会や施設見学に参加する ④健康づくりについて学ぶ）

重要カテゴリー	重要サブカテゴリー	重要アイテム
自分の健康に役立つものを得る経験	自分の健康に役立つ情報	個人的には自分に役立つ話が聞けてよかった
	日常生活で活用できない情報	何に気をつけたらいいかはっきりしたものがわからなかった 教えてもらった内容を一人だと忘れてしまい結局続かない
	健康に対する意識の広がり	保健委員になったから講座にも出ていろいろ勉強でき意識が広がった
保健委員が把握した地区の状況・特性	地区の仕組みや地区の人の興味を知る	掛川市といっても地区によって興味や仕組みが全く違う 地区の人は忙しい 地区の人たちはスポーツのような活動に興味がある 地区の人はすでに個人的に健康のための活動をやっている
	地区の人は予防の必要性には気付きにくい	健康は病気になってみてわかるようなところがある 病気になってはじめて健康の大切さを実感した 好きなものを飲んだり食べたりして死ねたら幸せといっても、実際にどうかしたらほっぽってもいいかというとそんなことない
保健委員活動は勉強の機会	地区の人が入れ替わりで学ぶ機会	入れ替わり立ち替わりでも勉強する機会を与えてもらった 2年に一度保健委員が変わることをくり返せば結構な人が勉強会に参加する 市立病院の見学会も知らないことがいっぱいあった
保健委員活動の意義と企画・実施方法を学ぶ	地区の人が喜ぶ活動は地区に必要な活動	やるなら地区で喜ばれる活動をしたい
	健康講座で重要なのは来てもらうこと	講座は来てくれるだけで健康を考える機会 講座にまず来てもらうのが大事
	健康講座に人を集めるための工夫	ほかの地区活動と抱き合わせ（共催）で講座を行う 開催時間や曜日を工夫する 講座にプラスしてみんなが興味がある活動（測定など）を行う もの（おまけ）でさそう
	地区の人の意見を聞き地区の興味に合った活動	多くの人が参加する地区に合った活動をやる 興味があるものは住民から反応がある 地区の人が欲していることについて意見を聞く
健康づくりの成果について学ぶ	健康づくりの結果はすぐに出ない	ステップバイステップでやるのではないか
保健委員活動の役割を学ぶ	元気な人に元気な状態を長く続ける大切さと方法を伝える活動	保健委員の活動は元気な人を元気な状態を長く続けようというもの 保健委員がやる唯一の仕事が健康はなまる教室 保健委員の仕事は健診を受けていない人に受診を勧めるようなこと 講座に出てくる人は元気

1．【出張健康はなまる教室に関連した地区活動】のすすめ方（表1）

出張健康はなまる教室に関連した地区活動は、手引書「地区活動のすすめ方」の枠組みでは不足していた活動内容（表1の点線で囲った項目）と活動上の課題（表1の下線部）もあったが、概ね「地区活動のすすめ方」の枠組みに沿って活動されていることがわかった。以下、活動の場面ごとに、出張健康はなまる教室に関連した地区活動の現状と課題について説明する。

（0－1）地区保健委員会の引き継ぎ（役員決めと年間スケジュールの決定）

この活動は、既存の枠組みには活動内容として示されていないものの、地区活動に関連した最初の保健委員活動として、その経験が語られていた。それは〈役員を引き受けると不幸という地域内のムード〉の中、〈役員とスケジュールを決めるだけの引き継ぎ〉が行われ、引き継ぎ

はほとんどなされない《役員を押し付け合う引き継ぎ会で年間スケジュールを決める》現状があり、保健委員は〈地区活動を企画するための情報不足〉と〈何もわからない不安〉を感じながら《何もわからない状況で年間スケジュールを決める》というネガティブな経験であった。

（０－２）地区保健委員会での企画立案（予算・会計）

予算・会計は、企画立案を行う上で不可欠な要素であるが、地区活動の既存の枠組みには含まれていなかった。しかし、実際には予算・会計にも保健委員は関わっており、その現状として、保健委員は《活動費の使い方に対する負担》を感じており、具体的には〈予算が多すぎる〉〈予算の活用方法や仕組みに問題がある〉と予算消化の問題を感じていることがカテゴリーとして抽出された。

（１）地区保健委員会での企画立案

この活動では、①日時の決定を《自分たちなりに考えて決める》方法で行っており、②会場は、〈会場の近さと広さで決める〉ことがある一方で、「地区全体のことはセンターでやると決まっている」というように〈地区の中で活動する場所は自ずと決まってくる〉地区内の事情があった。

③「出張健康はなまる教室」の内容は、保健委員から《市から与えられた活動》と受け止められていた。これには〈健康のために与えられた良いテーマ〉であり〈初めて地区活動を行う時の指針となる活動〉として活用しているポジティブな受け止めと、〈必要性が感じられない押しつけられた活動〉であり〈テーマと枠組みが決められた不自由な活動〉と感じたネガティブな受け止めがあった。

（２）計画・立案

この活動では、健康講座としての「健康はなまる教室」を企画実施する時に生じた保健委員の懸念が示されていた。保健委員は健康講座を行う時に、地区の状況や地区の人々に思いをはせ〈地区の状況と地区の人への遠慮から働きかける方法に苦慮する〉ことや〈地区の様々な事情から企画の難しさを実感する〉というような、《地区の状況がわかるからこそ生じる講座実施への懸念》を感じていた。

（３）協力・援助

この活動では、《地域の協力》や《地区内の他の委員とタイアップ》が〈地域の協力があると楽に活動できる〉状況や〈地区の長の協力を得ると参加者が増える〉〈地区内の他の委員と運営も予算も持ちあうと効果が大きい〉といった活動成果につながる大きな要因であることが示された。

（４）宣伝活動

この活動では、保健委員が開催準備として宣伝活動を行い、《自分たちの宣伝活動の結果》を評価し、その結果《ＰＲ活動に対する思い》が生まれる経験をしていた。具体的には、「口コミ、回覧のタイミングの工夫、ちらしの全戸配布」など〈自分たちなりに工夫して行ったＰＲ〉方法で宣伝活動するも、〈ＰＲの成果がない〉ことで〈人を集める大変さや不全感〉を感じていた。

（０－３）出張健康はなまる教室　事前準備

この活動は、既存の枠組みにないもので、保健委員の経験からいくつかの課題が示された。この活動では、保健委員が《出張健康はなまる教室を開催するための必要物品や会計の準備》として〈保健師に聞きながら自分たちで必要物品を調達する〉保健委員がいる一方で、〈市からの説明の理解が不十分で物品準備ができない〉保健委員がいたことも示されていた。また、「市で一括会計できるものがある」ことや「市で一括注文できるものがある」というような指摘など〈市から提示された会計方法を無駄だと思う〉保健委員の意識が示された。

（５）出張健康はなまる教室　当日

当日の活動として《当日の運営》と《当日の評価》という２つのカテゴリーが抽出された。当日の運営では、〈内容がわかっていれば当日の運営はできる〉という事実と、〈どうせやるなら楽しくやろうと心掛ける〉保健委員の思いや〈2年目の人がいると安心して活動ができる〉といった運営しやすい活動体制が示された。一方で〈自分の運営方法を不安に思う〉ことや〈人が集まらなくても仕方ないと決めて活動する〉と

いった不安とあきらめの気持ちが運営する保健委員の思いとしてあること、〈小さな子供連れで活動する大変さ〉といった保健委員が子育て世代である場合に生じる活動のしづらさがあった。また、《当日の評価》では、〈出ると面白く勉強になる〉という良い評価と、〈参加した人には良い内容だが参加者が少ない〉といった「出張健康はなまる教室」の課題が示された。

（6）報告書・感想

この活動では、「健康に気をつける年代の人に必要な内容」であり「内容をもっとたくさんの人に知ってほしい」と思って活動しても、〈新鮮味がないと参加者が少なく、結果的に内容を浸透できずもったいない〉という《実施結果に対する不全感》や〈参加者が少なく講師に対し申し訳なく思う〉《講師に対する罪悪感》という出張健康はなまる教室実施後に感じる保健委員の思いが抽出された。

（7）学習

この項目は、地区活動を含む保健委員活動を通じて得た学習内容が抽出された。（①自分のからだを知り家族の健康を考える）に関連した内容には、《自分の健康に役立つものを得る経験》があり、（②市の健康状況・地区を知る）では、〈地区の仕組みや地区の人の興味を知る〉ことや〈地区の人は予防の必要性には気付きにくい〉といった《地区の状況や特性》を学んでいた。しかし、市の健康状況についての学びは抽出されなかった。（③研修会や施設見学に参加する）ことは〈地区の人が入れ替わりで学ぶ機会〉であり、《保健委員活動が勉強の機会》として機能していた。（④健康づくりについて学ぶ）に関連する学習内容として《保健委員活動の意義と企画実施方法を学ぶ》《健康づくりの成果について学ぶ》《保健委員活動の役割を学ぶ》という３つがあり、保健委員は、出張健康はなまる教室を含む地区活動から経験的に健康づくりについて学んでいることが示された。

２．【保健委員活動に影響する要因】（表２）

出張健康はなまる教室に関連した地区活動のすすめ方の分析の結果、【保健委員活動に影響する要因】として１）保健委員の地区での位置づけと地区の理解　２）各地区の保健委員の意識と活動体制　３）市や保健師に対する感情の３つの要因が抽出された。

１）保健委員の地区での位置づけと地区の理解

保健委員は各区長・地区長が推薦し、市長が委嘱するものだが、《保健委員の地区での位置づけと地区の理解》により保健委員活動の負担や活動のしやすさに影響があった。〈地区で保健委員活動の意味が知られていない〉ことや〈地区内の組織に強制的に位置づけられて仕事が多い〉ことで本来の活動に専念できず、〈地区の保健委員は短い任期で全員交代〉することも加わり〈保健委員本来の仕事がわかりづらい〉状況となる。また〈活動の地域差〉は《地区内の活動の歴史》につながっており、活動の地域格差はそのまま受け継がれていることが示された。

２）各地区の保健委員の意識と活動体制

《地区の保健委員のメンバー構成と協力体制》《保健委員としての自覚》《保健委員という役に対する負担感と責任感》《保健委員の負担感の軽減》という４つが活動に影響する重要カテゴリーとして抽出された。これらは最も多くの重要アイテムを含んでいた。特に課題として《保健委員の協力体制》として〈一部の保健委員で活動する実態〉がある現状や、〈保健委員としての責任感に差がある〉こと、〈保健委員が感じる時間的・精神的負担感〉があること等が示された。

３）市や保健師に対する感情

これは、市や保健師に対する感情が、出張健康はなまる教室の活動内容への理解や活動への協力姿勢へ影響する可能性が示されたカテゴリーであった。〈保健師への信頼感〉があった一方で、一部の保健委員から〈市への不信感と反発〉が語られていた。

３．【今後の健康づくりに必要なこと】（表３）

このテーマでは、出張健康はなまる教室に関連した地区活動の現状や課題をふまえて出てきた今後の健康づくりに必要な３つのニーズが抽出された。

１）市（保健師）が担う役割

これは、保健委員が考える市や保健師に対する役割期待であった。〈これまでの活動成果や課

表２．【保健委員活動に影響する要因】

重要カテゴリー	重要サブカテゴリー
１．地区の理解と保健委員の位置づけ	
《保健委員の地区内での位置づけと保健委員に対する地区の理解》	地区であまり知られていない保健委員活動の意味 地区内の組織に強制的に位置づけられて仕事が多い(あて職) 保健委員の本来の仕事がわかりづらい 地区の保健委員は短い任期で全員交代
《地区内でのこれまでの活動の歴史》	活動の地域差
２．各地区の保健委員の意識と活動体制	
《地区の保健委員のメンバー構成と協力体制》	地区の保健委員のメンバー構成 保健委員の協力体制 一部の保健委員で活動する実態
《保健委員としての自覚》	保健委員としての意識（責任感）に差がある 代表連絡員の方針が活動に影響する
《保健委員という役に対する思い》	保健委員が感じる時間的・精神的負担感 保健委員が感じる責任感
《保健委員の負担感の軽減》	全員が責任をもって講座を運営する 気持ちの持ち方を工夫する 引き継ぎ方に配慮する
３．市や保健師に対する感情	
《市や保健師への信頼感と不信感》	市への不信感と反発 保健師への信頼感

表３．【今後の健康づくりに必要なこと】

重要カテゴリー	重要サブカテゴリー
１．市（保健師）が担う役割	
《健康づくり全体の方向性を市民と共有し、保健委員活動をバックアップする》	これまでの健康づくり活動の成果や課題を総括する 市がやろうとしていること（市で掲げる健康医療日本一の目指す方向性）を市民と共有する 保健委員活動の対象者と活動のポイントを市が明確に提示する 地区のイベントに保健師が参加し、身近に保健師とふれあう機会を作る 地区の要職者に市(保健師）から働きかける
２．健康や保健委員活動に対する理解の促進	
《健康に対する市民の理解》	健康について市民が理解できるように伝える 市民が根本的に健康の大切さに気付くバランスのとれた活動が必要
《健康づくりに対する保健委員の理解》	活動当初に保健委員の本来の役割と活動目的を理解する機会をもつ
《保健委員活動に対する地区の人の理解》	保健委員活動が健康づくりに役立つものと伝える
３．健康づくりの方法や内容の改善と充実	
《市が目指す健康のため同じテーマに市全域で取り組む》	負担にならない数の同じテーマについて市全域で活動する
《地区の準備性に合わせた健康づくり活動の経年的な積み重ね》	地区の興味(準備性）を把握し、地区に合ったやり方で行う 地区の中で活動を脈々と引き継ぎながら健康づくりを行うこと 事務的なことは前年度のやり方を引き継げるようにする
《地区活動の内容や方法を見直す》	価値観が違う各市民が自分で取り組み自己満足できる方法を提案 健康課題・対象者が明確で新鮮味のある健康づくり活動を行う 地区の人にとって魅力のある活動を行う 地区内の大人数が集まる場所から働きかける

題を総括する〉ことや〈市がやろうとしていることを市民と共有する〉こと、保健委員の活動をバックアップするために〈地区の要職者に対し働きかける〉ことなど《健康づくり全体の方向性を市民と共有し、保健委員活動をバックアップする》役割を市や保健師が担う必要があると考えていた。

2）健康や保健委員活動に対する理解の促進

保健委員は、〈健康について市民が理解できるように伝える〉ことや、〈保健委員の本来の役割と活動目的を理解する機会をもつこと〉、〈保健委員活動が健康づくりに役立つものと伝える〉ことで、市民全体、保健委員、地区の人々という住民の３つの層を対象にそれぞれ、健康、健康づくり、保健委員活動の理解を促すことが必要と考えていた。

3）健康づくりの方法や内容の改善

保健委員は、自分たちのこれまでの地区活動の良い点や課題をふまえて、【健康づくりの方法や内容の改善や充実】が必要と考えていた。具体的には《市が目指す健康のため同じテーマに市全域で取り組む》ことの継続、地区の興味や準備性を把握し地区に合った活動を引き継ぎながら重ねるといった《地区の準備性に合わせた健康づくり活動の経年的な積み重ね》を大切に活動すること、〈地区の人にとって魅力のある活動を行う〉ことや〈価値観が違う各市民が自分で取り組み満足できる方法を提案する〉など、地区の人の感覚を重視して《地区活動の内容や方法を見直す》ことが必要と考えていた。

Ⅴ．考察

1．地区活動としての出張健康はなまる教室

出張健康はなまる教室に関連した地区活動のすすめ方の現状から、出張健康はなまる教室は、地区活動として保健委員に受け止められ実施されていたと考えられた。保健活動推進委員という役職は、市長から委嘱されるという特性上、市から決めるように言われた役職であり、区長や地区長からお願いされ引き受けるものであったり、地区内で順番に降りてくるから引き受けるものであった。そのため、保健委員に関連した活動はどれも「市から言われた仕事」と捉えやすいと考えられ、他の地区活動も出張健康はなまる教室も、「市から活動するように言われた」という考え方に基づけば、大きな違いはなかったと考えられた。活動当初の保健委員は、地区保健委員会の引き継ぎ会の経験にあったように、保健委員活動の目的や役割を理解して活動を始めたわけではなかった。つまり、出張健康はなまる教室と他の地区活動の違いについて疑問を持つ段階になかったと考えられる。

コミュニティの人々の健康や生活の質を向上するための活動では、メンバーを集め組織をつくり、健康課題を明確にし、その課題を解決する計画をつくり実施し、活動を評価し普及するという活動のすべての過程をメンバー全員で共有し繰り返し行い発展していくことで、健康課題の解決と地域のエンパワメントができるといわれている[3)]。保健委員の地区活動は、保健師と協働して活動を企画し、計画立案から実施、報告まで行うよう手引書に記載があるが、当日運営の場面で、保健委員の「なまの声」として「最後までこれでよかったのかと不安になる」とあるように、保健委員が活動目的や解決すべき健康課題について理解できないまま、活動していたり、「市が総括して活動することを決めたのか疑問がある」と疑問を抱きながらもそのまま運営している実態がみられた。これらのことから、保健委員に対し手引書で方法を提示することは、誰もがそのまま活動できる反面、健康づくりとしての活動目的を理解する機会を得られないまま、ただ教室を開催することだけが目的となりやすいことや活動の意義に対し理解を得られない可能性があると考えられた。

保健委員は保健委員活動を通して、健康づくりについて経験的に学んでいたが、保健委員の精神的負担を軽減し、より効果的に活動していくためにも、今後は、活動当初の早い段階で系統的かつ積極的に健康や健康づくりについて保健委員が学習する機会をつくり、活動計画を協働で企画立案する保健師は、出張健康はなまる教室や地区活動の意義、目的・目標などについて、保健委員に伝わる表現で丁寧に説明し、保

健委員と目的や方法を常に共有しながら活動をすすめることで保健委員のエンパワメントが高まるよう支援することが重要と考えられた。

2．保健委員の生活者感覚と主体性

保健委員は地区の健康づくりの担い手である前に、地区に住む生活者である。そのため、保健委員の感覚と行政のものごとのすすめ方にギャップが生じ、そのことで保健委員が違和感や納得がいかない感覚を受けていると考えられた。特に、活動のこれまでの成果や、事務的な手続き、予算・会計に関して、総括した内容を求めたり、行政で必要としている手続きが本当に必要なのか、やり方に無駄はないのかなど、生活者の感覚で内容を確認し、評価している部分において健康づくり活動を行う際の保健委員の主体的な姿がうかがえた。しかし一方で、保健委員活動は、行政から手引書等が示され、その方法も細かく規定されているため、保健委員が行政側に疑問を投げかけたとしても、その内容を行政が受け止め、ともに改善案を検討しない限り、行政の考え方だけで活動のすすめ方が決められ、市民である保健委員の主体性が生かされる機会はほとんどなくなると考えられた。

星は、WHO が述べている新しい健康教育の考え方として、「健康教育活動の方法は、従来から活用されてきた他者依存型で、専門家を主導とした方法から脱皮しなくてはならない」ことを紹介している[4)]。このことからも、今後は健康づくりの活動方法や内容について、専門家である行政（保健師）の意見だけでなく、市民である保健委員の主体性を尊重し、保健委員の声に真摯に耳を傾け、出された課題については共に検討し決定することが重要と考えられる。また、地域の協力・援助が保健委員活動のやりやすさにつながっていた現状から、必要であれば、地域の他の組織も巻き込んだ健康づくり活動の見直しや検討を行う組織をつくり、地域の支援体制を含めた保健委員活動の活動体制づくりを充実させることも重要と考えられた。

Ⅵ. おわりに

今回の調査では、保健活動推進委員会において役職についた保健委員のなまの声から、市民の主体的な健康づくりをすすめるために今後必要なことを検討した。現在の活動方法においても主体性を発揮する場面があったが、行政主導の部分も多く、「行政から仕事を受けて、活動する時は主体的に取り組む」という保健委員活動の特徴と健康づくりの意義や目的の理解を深められる働きかけにより保健委員自身のエンパワメントと地区での活動の発展がすすむ可能性があることが示唆された。

謝辞

本調査にご協力くださいました平成 23 年度掛川市保健活動推進委員の皆様、また常にあたたかく見守ってくださった掛川市保健予防課職員の皆様に感謝申し上げます。

[引用文献]

1）厚生労働省 HP：健康日本 21 最終評価【概要版】
http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000001r5gc.html

2）掛本知里,中田晴美(2008)：地域健康づくりにおける保健活動推進委員および健康づくり食生活推進委員活動の現状に関わる検討,掛川市健康調査報告書,平成 19 年度:19-27.

3）CBPR 研究会(2010)：地域保健に活かす CBPR コミュニティ参加型の活動・実践・パートナーシップ,医歯薬出版株式会社.

4）星旦二,麻原きよみ編(2008)：これからの保健医療福祉行政論 地域づくりを推進する保健師活動,日本看護協会出版会.

[参考文献]

1）安梅勅江(2007)：ヒューマンサービスにおけるグループインタビュー法 科学的根拠に基づく質的研究法の展開.医歯薬出版株式会社.